

自立と創造を目指しての教育改革

遠山 敦子

I 21世紀の展望

- 1) 2001年の衝撃
- 2) 問題の地球規模化、高度情報化
- 3) 先端科学技術の展開と人間生活への影響拡大
- 4) 世界勢力地図の変貌と日本の存立
- 5) 先行きの不透明性、不確実性

Ⅱ 転換期の日本の教育改革

- 1) 激動の2年5ヶ月（2001.4～2003.9）
- 2) 諸改革を必要とした背景
 - ① 教育改革国会を引き継ぐ
 - ② 学力低下など初等中等教育についての国民の不安
 - ③ 大学改革への社会的要請
 - ④ 構造改革の観点からの相次ぐ外圧 など

Ⅲ 教育改革の目標と理念

- 1) 改革の理念の明確化（人間力戦略ヴィジョンの提示）
新しい時代を拓く心豊かでたくましい日本人の育成
- 2) 「画一と受身」から「自立と創造」を目指す教育改革
～20世紀型から21世紀型の教育へ～
- 3) 小学校から大学まで、様々な改革を一貫した理念で

IV 改革の4つの具体的理念

- 1) 「個性」と「能力」の尊重
—— 一人一人の伸びる力を伸ばす教育 ——
- 2) 「社会性」や「国際性」の涵養
—— ことこのころの教育、真の教養 ——
- 3) 「多様性」と「選択」の重視
—— 規制緩和による学校の個性化・多様化 ——
- 4) 「公開」と「評価」の推進
—— 開かれた学校へ、説明責任の明確化 ——

V 「確かな学力」の定着を求めて

- 1) 新指導要領と「ゆとり教育」の強調への疑問
- 2) 「学びのすすめ」アピール（2002年1月）による「確かな学力」への誘導
- 3) それを可能とする制度改革——学校の創意工夫の尊重
習熟度別学習、総合的な学習の時間、朝の読書、スーパーハイスクールなど
- 4) 教員資質の向上——指導力不足の教員の転職、10年研修、社会人の登用
- 5) 本格的カリキュラム論の必要性

VI 国立大学の法人化など 大学改革の推進

- 1) 多年の課題、法人化への経緯
- 2) 「行政改革」ではなく「大学改革」の一環として
- 3) 制度設計上の苦心と国会論議など
- 4) 大学法人の発足と今後
- 5) それ以外の大学改革

21世紀COEプログラム、専門職大学院制度の創設
事前の規制緩和と事後評価、大学の第3の使命

VII 人間精神の復権 (真の知力と心の豊かさ)

- 1) Othernessの認知
- 2) 異文化を知る、自国を知る
- 3) ところを養う